水高 NIE便り

No. 8
2019. 10. 25
茨城県立水戸高等特別支援学校

新聞紙の再利用法①

NIEの実践が始まり，新聞が**複数紙**届くようになってもうすぐ2カ月になります。現在，3紙，来月からはさらに3紙が加わります。**6紙**もの新聞を読む機会は，なかかな無いと思いますので，是非，**読み比べ**てもらえればと思います。

そんな新聞ですが，生徒が読んだり，授業で教材として活用したりして，役目を終えると古新聞と呼ばれるようになります。そこで，今回は**新聞紙の再利用法**を紹介します。右の写真は新聞紙を使った**バックとスリッパ**です。スリッパは折るだけ，バックはハサミとのりを使って，意外と簡単に作れます。古紙回収に出すもの良いですが，楽しみながら工作で再利用するのも良いかもしれません。作り方は，インターネットの様々なサイトに出ていますので，お試しあれ。

新聞紙で作ったバック↑　と　スリッパ↓

気になる記事コーナー8

今回の記事は，**国民栄誉賞受賞者で将棋棋士の羽生善治さん**が，新聞についての自分なりの考えを述べている記事です。

羽生さんの新聞との関わりは，**「将棋欄」**からだそうです。将棋好きの羽生少年の日々の楽しみは，将棋欄を見ては，プロが指した次の一手を考えることだったそうです。

次第に，社会面の漫画，スポーツの記事と将棋以外の記事も読むようになり，**読めない漢字**，**意味の分からない言葉**にも出会いましたが，新聞の活字に慣れることで，**「語彙力」**がついていったそうです。また，新聞記事が**限られたスペースや字数でまとめられている**ことから，読んでいるうちに，理路整然とした**「文章力」**がついていったそうです。

インターネットニュースとの比較では，**インターネットのスピード**に対して，**新聞の良さ**は**ニュースを俯瞰（ふかん）的に見ること**ができ，世界の動向が把握しやすいところだそうです。

皆さんも，羽生さんのように自分の興味のある分野から記事に触れることで**文章力**をつけていきましょう。

身につく語彙力、文章力

将棋棋士　羽生善治さん

将棋を始めたのは小学1年生だった。時を同じくして新聞を読むようになった。新聞には「将棋欄」があり、プロが指した次の一手を考えることが日々の楽しみだった。

最初は将棋欄だけだったが、次第に社会面の漫画、スポーツ面なども読むようになった。「更迭」とか「玉虫色の決着」とか、子どもの時にはわからなかった言葉の意味が大人になるにつれわかるようになり、新聞の活字に触れながら自然に語彙力がついた。

外国で対局をしたり、海外旅行をしたりするようになった20歳ぐらいから国際面を熱心に読むようになった。最近ではサウジアラビアにある石油施設攻撃の記事が気になった。インターネットニュースは速報性が最大の武器。それに対して新聞は、ニュースを俯瞰的にみることができて、世界でいま何が起きているのか、動向を把握しやすいという良さがある。

新聞紙面は限られたスペースや、ある程度決まった文字数で記事がまとめられているので、読んでいるうちに理路整然とした文章力が身につけられると思う。ロジックを積み上げるという意味では、将棋の「読み」と共通するところもある。小中学生は、自身が興味を持っている分野の記事から新聞に触れることで、まとまった文章を読む力がつくのではないか。

将棋界に関する記事で言うと、ここ3年くらいで大きく様変わりした。最年少棋士の藤井聡太七段が29連勝という新記録を打ち立て、将棋の話題が1面に載るようになった。本当にありがたいことで、今後は記事を通して勝敗だけではない将棋の価値や文化的な側面を伝えることが棋士の役割だと考えている。

はぶ・よしはる　1970年埼玉県所沢市生まれ。15歳で四段、中学生棋士に。89年、19歳で初タイトルの竜王を獲得。96年には将棋界初の七冠となった。通算タイトル獲数は99期。2017年、「永世竜王」の資格を得て「永世七冠」を達成した。18年2月に国民栄誉賞が授与された。49歳。

茨城新聞　10月14日（月）の記事